

農 業 1

大野城市教育委員会

農業の昔と今

稲作りは、弥生時代から始まり、今でも日本の農業の中で大切なものです。大野城市も戦前は一部を除きほとんどが農家でした。終戦後の30年代から50年代にかけて、高度経済成長によって人々の生活のようすも大きく変わりました。

大野城市も別表のように農家が激減し農業のようすも大きく変化しました。私達に現在があるのも弥生の昔から各時代の中で苦勞とたたかい、長い間にくふうされて作られた生産用具や、技術・伝統等種々の働きのおかげです。先人の創意工夫を知ることは、私達の今からの生活に役立つものと思います。先人に感謝をするとともに今からの私達の生活の向上を目指すことも意義があると思います。

農業の行事

昔、農業は日本の産業の中心になっていました。農作物の豊作か凶作かは、農家の人々にとっては死活にかかわることでした。特に稲作は、自然気象と深いつながりがありました。雨・風・気温にあわせて農事を進めていました。水が不足すれば雨乞いをし、虫が多ければ虫除けのための「虫封じ」の祈禱をし、田植えの前は豊作を祈り「タホメ」をしたり、田植えが終わると申し合わせて休みを取り「サノボリ」をしました。「サ」はもともと田の神であり、サノボリとは田植えの後の神上りのことです。人々はこのように節目節目で豊作を祈る行事をしていました。



農 家 数 の 推 移 (戸)					
	専 業	第 一 種 兼 業 農 家	第 二 種 兼 業 農 家	農 家 計	全 戸 数
昭和25年	233	232	198	663	1,928
昭和35年	177	199	294	670	3,982
昭和40年	120	225	252	597	6,341
昭和45年	25	201	340	566	8,275
昭和50年	9	75	388	472	15,936
昭和55年	19	42	350	411	18,635
昭和60年	2	19	356	377	22,048

(参考)昭和25年以前大野村時代はごく一部を除いてすべて農家である。

田植え 6月

田植えは田に水を入れる順序にしたがって行なわれました。田植えの前の水口祭りは一般に行なわれませんが「ワラ束」に青い木の葉をさして、それを田の水口に立てると「青ビロ」を除けるといっていました。作業は手間替えてしたり、あるいは人を雇ってしました。田植えが終ると残した苗をきれいに洗って、一束か三束をそれぞれ自分の村の辻に建ててある庚申様（こうしんさま）に供えました。豊作を祈るためです。

田ホメ 7月

7月7日に、自分の耕作している田へ行き「タホメ」という行事をしました。豊作を祈る行事です。このとき田へまくものは酒かオシオイ（神に祈った砂）でした。この時「ヨカオタネ」または「ヨウデキタ」と唱えごとをしました。山ホメ海ホメをすところもあると聞いています。自然を大切にホメてあげる心が大切ではないでしょうか。

収穫祭 10月

収穫の祭りは古代から宮廷でも行なわれていた、新嘗祭はその年の新穀を神にささげ、これを天皇も共食する祭りです。くんち、十日夜、案山子上げ、亥の子、丑の日などいずれも田の神の祭りで神棚や床の間などに稲束とか大根、餅などをそなえました。田の神は恵比須、大黒、歳神などと後に考えられるようになりました。どの神も稲の豊作をもたらす農民の生活を豊かにする働きを持つと信じられています。大野村では10月15日前後を「オクンチ」として祝うところもあり甘酒やおハギ餅などを作りました。又米の粉のだんごを作り小豆を煮てゼンザイにしました。むかしは砂糖を入れず塩味でした。

旧大野村の主要農事暦

一月	上旬 中旬 下旬	カラシ（油菜）の移植 麦の中耕施肥 麦踏み 麦中耕土掛け 前旬に同じ
二月		
三月	上中旬 下旬	野菜類播種 苗代田の耕起
四月	上中旬 下旬	瓜類播種 タネツケ（稲粃種浸漬）
五月	上旬 下旬	八十八夜前後に苗代田を作って播種する 春蚕掃立 春蚕上簇
六月	上旬 中旬 下旬	麦、カラシ刈入れ 田犁（耕起）施肥大豆粕 など、田植 前旬に同じ 田植後 庚申塔に苗を供えて豊作を祈願する 「サナボリ」という休日をとる 下旬夏蚕掃立
七月	上旬 中旬 下旬	田植後20日頃「ガンツメ」打、以後草取り は9月上旬まで数回 夏蚕上簇 秋蚕掃立 田の虫除けなど9月上 旬まで数回 草取り 虫除け
八月	上旬 中旬 下旬	草取り 虫除け 前旬に同じ 秋蚕上簇
九月	上旬 下旬	野菜、豆類播種 井手落し
十月	中下旬	稲刈り 田干し 脱穀 日干し 粃すり
十一月	上旬 中旬 下旬	前旬に同じ 秋の田犁 麦類の播種 カラシ（油菜）の播種
十二月	上旬 中旬 下旬	薪取り 前旬に同じ 正月迎いの準備

各月各旬に空欄があるが、その期間に主要作物にかかわる作業の特筆するものがないから書き上げないだけで、農家がまったく遊んでいたわけではない。田や畑に直接関係はなくても「ワラ」工品などの作業はあったし薪取りもした。

